

平成26年度概算要求

－グローバル人材育成のための大学の国際化と学生の双方向交流－

1. 大学教育のグローバル展開力の強化

H26概算要求額:230億円(H25予算額:97億円)

(1) 大学の体制の国際化

●「スーパーグローバル大学事業」

要求額:156億円(新規)、30大学選定(H26-H35)

制度改革と予算を総動員し、グローバルトップ大学を徹底的に国際化

●「グローバル人材育成推進事業」

要求額:42億円(H25予算額:45億円)、42大学選定(H24-H28)

学生の海外派遣や語学力・コミュニケーション能力向上のための体制整備

(2) 教育プログラムの国際化

●「大学の世界展開力強化事業」

要求額:31億円(H25予算額:28億円)、5年間財政支援
質の保証を伴った学生の双方向交流プログラムの開発・実施

- ・「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援(H22-H26:6件、H23-H27:10件)
- ・米国大学等との協働教育創成支援(H23-H27:12件)

- ・海外との戦略的高等教育連携支援(H25-H29:5件予定(AIMSプログラム))(H25-H29:2件(ICI-ECP))

- ・ASEAN諸国等との大学間交流形成支援(H23-H27:3件、H24-H28:14件)

- ・ロシア、インド等との大学間交流形成支援(新規)(H26-H30:6件予定)

2. 大学等の海外留学支援制度の創設等

H26概算要求額:145億円
(H25予算額:52億円)

意欲と能力のある若者全員に留学機会を付与し、世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、奨学金の拡充により留学経費の負担軽減を図るとともに、大学、企業等との連携による研修の実施等、日本人学生の海外留学をきめ細かく支援する官民が協力した新たな制度を創設する。

●「大学等の海外留学支援制度の創設」 要求額:144億円

- ＜長期派遣＞ 200人→500人
- ＜短期派遣＞ 10,000人→32,000人
- ＜短期受入れ＞ 5,000人→10,000人

3. 優秀な外国人留学生の戦略的な受入れ

H26概算要求額:328億円
(H25予算額:299億円)

留学生30万人計画を達成するため、奨学金等の充実を図るとともに、現地での入学許可を出す仕組みづくりの促進、「地域戦略枠」の創設による留学生受入れ拡大及び卒業後の就職支援等のグッドプラクティスの共有促進等により優秀な外国人留学生の受入れを促進する。

●「留学生の受入れ環境の充実」 要求額:323億円

- ・国費外国人留学生制度 11,260人
- ・文部科学省外国人留学生学習奨励費 10,100人
- ・大学等の海外留学支援制度の創設【再掲】
＜短期受入れ＞ 5,000人→10,000人

●「国内外での情報提供及び支援の一体的な実施」

要求額:5億円

スーパーグローバル大学事業

(新 規)

平成 2 6 年度概算要求額： 1 5 6 億円

〔うち「優先課題推進枠」 1 5 6 億円〕

国際化拠点整備事業費補助金

背景・課題

- 社会の多様な場面でグローバル化が急速に進む中、世界各国がそれぞれ自国の成長を牽引する人材育成を担う高等教育の充実を図っており、我が国においても、大学の世界におけるプレゼンス向上やグローバルリーダー育成のための体制強化が急務。

対応・内容

【対応】

- 世界に冠たる教育研究レベルを誇るトップレベル大学をはじめ、高等教育の国際化を牽引し有為な人材を育成するグローバルトップ大学群を形成する国公私立大学を、現行制度の枠にとらわれずに、制度改革と組み合わせ制度と予算を総動員して支援。

【内容】

- スーパーグローバル大学事業 1 5 6 億円【新規】

1,040,000千円 × 10件

260,000千円 × 20件

大学教育の国際標準化、研究力向上に繋がる教育力の最大化を図り、ランキングトップ100を目指す力のある大学（トップ型）や、教育環境の国際化推進など、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する力のある大学（グローバル化牽引型）を支援。

政策目標

- 人材・教育システムのグローバル化による世界トップレベル大学群を形成し、グローバル化に対応する人材を育成する。

グローバル人材育成推進事業

(平成25年度予算額：45億円)
平成26年度概算要求額：42億円

国際化拠点整備事業費補助金

背景・課題

- わが国の学生が内向き指向にあると指摘される中、世界で活躍する優れた人材の育成を強化するため、国際的に誇れる大学教育システムを構築するとともに、日本人学生等の海外交流を促進することが重要な課題。

対応・内容

【対応】

- 国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身につけ、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、学生のグローバル化を推進する組織的な教育体制の整備を支援。

【内容】

○ グローバル人材育成推進事業	42億円
	151,800千円 × 11件
	81,425千円 × 31件

大学の教育目的等に応じたグローバル人材育成像とそれに必要な能力・達成すべき水準、大学の国際通用力向上のための指標等の目標値を設定。

上記の目標達成のため、以下の学生のグローバル化を推進するための組織的な取組を支援。

- ・ グローバル人材として求められる能力を育成するための取組
 - － 現地企業インターン等グローバル人材育成プログラムの開発
 - － 留学先の国における日本語指導支援 等
- ・ 教員のグローバル教育力の向上の取組
- ・ 学生の留学を促進するための環境整備
- ・ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

政策目標

- 豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身につけ、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できるグローバル人材の育成

大学の世界展開力強化事業

(平成25年度予算額：28億円)
平成26年度概算要求額：31億円

国際化拠点整備事業費補助金

背景・課題

- わが国の学生が内向き指向にあると指摘される中、世界で活躍する優れた人材の育成を強化するため、国際的に誇れる大学教育システムを構築するとともに、日本人学生等の海外交流を促進し、質の高い外国人学生の戦略的獲得等を図ることが重要な課題。

対応・内容

【対応】

- 国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学等との国際教育連携の取組を支援。

【内容】

- ロシア、インド等との大学間交流形成支援 4億円【新規】

66,500千円 × 6件

ロシア、インド等の大学との高等教育制度の相違を超えた、質保証の共通フレームワークの形成に加え、将来の日露・日印関係を見据えた産学連携の取組等を実施する、架け橋となるリーダー人材育成のための教育連携プログラム。

注) 以下の継続事業については、概要を省略

- 「キャンパス・アジア」中核拠点支援 9億円

平成23年度選定分 54,072千円 × 10件

平成22年度選定分 63,252千円 × 6件

- 米国大学等との協働教育創成支援 6億円

平成23年度選定分 54,072千円 × 12件

- ASEAN諸国等との大学間交流形成支援 8億円

平成24年度選定分 45,567千円 × 14件

平成23年度選定分 54,066千円 × 3件

- 海外との戦略的高等教育連携支援 3億円

56,993千円 × 5件

15,000千円 × 2件

政策目標

- アジア及び米国・欧州等との高等教育ネットワークの構築を図ることにより、我が国の大学の世界展開力を強化し、世界に飛躍するグローバル人材を育成。

大学等の海外留学支援制度の創設等

(平成25年度予算額： 52億円)
平成26年度概算要求額： 145億円
〔うち「優先課題推進枠」 144億円〕

(内訳) 留学生交流支援事業費補助金 145億円 (52億円)
政府開発援助留学生交流支援事業費補助金 等

背景・課題

- 世界的に急速なグローバル化が進展し、国際的な学生の流動や国籍を問わない人材獲得競争が激化する中、海外の大学等に留学した日本人は、2004年をピークに減少傾向。
- 日本人留学生の減少に歯止めをかけるだけでなく、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者全員に留学機会を付与し、世界に勝てる真のグローバル人材を育てることが急務。

対応・内容

【対応】

- 意欲と能力のある若者全員に留学機会を付与し、世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、奨学金の拡充により留学経費の負担軽減を図るとともに、大学、企業等との連携による研修の実施等、日本人学生の海外留学をきめ細かく支援する官民が協力した新たな制度を創設する。

【内容】

◆大学等の海外留学支援制度の創設 144億円 (52億円)

- 海外留学のための奨学金支給による経済的負担の軽減 112億円 (35億円)
 - ・長期派遣[1年以上] 12億円 (4億円)
学位取得を目指し、海外の大学院に留学する学生に奨学金を給付 (200人→500人)
 - ・短期派遣[1年以内] 99億円 (31億円)
大学間交流協定等に基づき海外の高等教育機関に短期留学する学生に奨学金を給付 (10,000人→32,000人)
- 双方向交流の推進による日本人学生の海外留学促進 32億円 (16億円)
 - ・短期受入れ[1年以内] 32億円 (16億円)
大学間交流協定等に基づく短期留学生に奨学金を給付 (5,000人→10,000人)

◆日本人の海外留学促進のための広報活動等 1億円 (新規)

政策目標

「日本再興戦略」が掲げる「2020年までに日本人留学生を6万人(2010年)から12万人へ倍増」の達成を目指す。

優秀な外国人留学生の戦略的な受入れ

(平成25年度予算額：299億円)
平成26年度概算要求額：328億円

(内訳) 政府開発援助外国人留学生給与 留学生交流支援事業費補助金	等	238億円(211億円)
政府開発援助(独)日本学生支援機構運営費交付金 及び (独)日本学生支援機構運営費交付金		90億円(88億円)

背景・課題

○我が国で学ぶ外国人留学生数は総じて増加傾向にあるが、「留学生30万人計画(平成20年7月)」の実現に向け、優秀な外国人留学生の戦略的確保が必要。

対応・内容

【対応】

○外国人留学生の受入れ環境の充実
日本留学に必要な情報の提供や渡日前入学等の推進並びに奨学金等、入口から卒業・修了後の就職まで一体的に支援。

【内容】

◆留学生の受入れ環境の充実 323億円(299億円)

○外国人留学生奨学金制度の充実 287億円(267億円)

①国費外国人留学生への奨学金の給付 (11,260人) 191億円(187億円)

②私費外国人留学生への文部科学省学習奨励費の給付 (10,100人) 64億円(64億円)

③大学等の海外留学支援制度の創設
<短期受入れ分>5,000人→10,000人【再掲】 32億円(16億円)

○留学生の就職支援 0.3億円(0.3億円)

・外国人留学生就職指導ガイダンスの開催、外国人留学生のための就活ガイド作成

◆国内外での情報提供及び支援の一体的な実施 5億円(5億円)

○日本留学フェア及び日本留学試験の実施等

政策目標

「留学生30万人計画(平成20年7月)」等の実現に向け、外国人留学生の受入れ環境充実のための経費を措置し、2020年までに、優秀な外国人留学生30万人の受入れを目指す。

大学の世界展開力強化事業

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援。

平成26年度要求額 31億円
(平成25年度予算額 28億円)

新規事業

●ロシア、インド等との大学間交流形成支援 (H26採択予定 67百万×6件)

ロシア、インド等の大学との高等教育制度の相違を超えた、質保証の共通フレームワークの形成に加え、将来の日露・日印関係を見据えた産学連携の取組等を実施する、架け橋となるリーダー人材育成のための教育連携プログラム。

継続事業

●「キャンパス・アジア」中核拠点形成支援

日中韓政府が共同で策定するガイドラインに沿って、単位相互認定や成績管理、学位授与等を共通的な枠組みで行う協働教育プログラム (H22採択 63百万円×6件、H23採択 54百万円×10件)

●米国大学等との協働教育創成支援

米国等の大学との教養教育の共通基盤の育成、E-learningの活用による協働の専門教育の開発、ダブル・ディグリープログラムの拡充等、新たな学びのスタイルによる協働教育プログラム (H23採択 54百万円×12件)

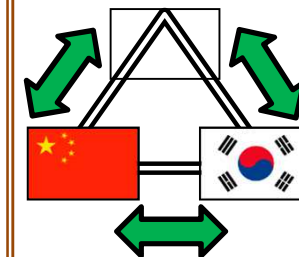
●ASEAN諸国等との大学間交流形成支援

ASEAN諸国等の大学との高等教育制度の相違を超えた、質保証の共通フレームワークの形成や教育内容の可視化等、アジアにおける先導的なモデルとなる大学間交流プログラム (H23採択 54百万円×3件、H24採択 46百万円×14件)

●海外との戦略的高等教育連携支援

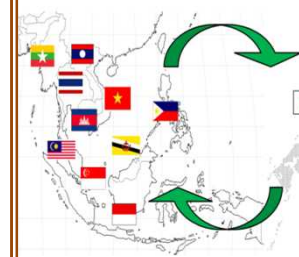
欧州連合、東南アジア教育大臣機構等との共同による国際的な高等教育連携枠組みのもとでの戦略的な教育連携プログラム (H25採択 57百万円×5件 (AIMSプログラム(予定))、15百万円×2件 (ICI-ECP))

事業例①



「キャンパスアジア
中核拠点形成支援」
: 三か国の大学が
コンソーシアムを
形成し、学生交流
を実施

事業例②



「ASEAN諸国との大
学間交流形成支援」
: 日本とASEANの大
学による先導的交
流プログラムの開
発・実施



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

大学の世界展開力強化事業 -ロシア、インド等との大学間交流形成支援-

平成26年度要求額 4億円【新規】

(66,500千円×6件)

概要

ロシア、インド等の大学との高等教育制度の相違を超えた、質保証の共通フレームワークの形成に加え、将来の日露・日印関係を見据えた産学連携の取組等を実施する、架け橋となるリーダー人材育成のための教育連携プログラムを支援。

「グローバル人材」を目指す意欲
ある学生の相互交流

異文化理解の促進、語学・コミュニケーション力の向上、日本人としてのアイデンティティーの確立

【取組例】

- ✓先導的大学間交流モデルの開発
- ✓高等教育制度の相違を超えた質保証の共通フレームワークの形成
- ✓単位の相互認定、共通の成績管理の実施
- ✓学修成果や教育内容の可視化
- ✓日露・日印の経済連携強化に資する産学連携プログラムの構築

海外大学での学修成果は自大学の単位として認定

交流分野:IT、工学、海洋、資源、
環境、原子力、宇宙、日本語・日本文化等



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

グローバル人材育成推進事業

グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため、
学生のグローバル力を徹底的に強化、推進する組織的な教育体制の整備を支援。

平成26年度要求額 42億円
(平成25予算額 45億円)

事業のタイプ

●タイプA(全学推進型):11大学

大学全体で設定する目標達成を目指す。

国内大学のグローバル化を先導する大学として他大学のグローバル化推進にも貢献。

北海道大学	東北大学
国際教養大学	お茶の水女子大学
国際基督教大学	中央大学
早稲田大学	千葉大学
同志社大学	関西学院大学
立命館アジア太平洋大学	

●タイプB(特色型):31大学

一部の学部・研究科等で設定する目標達成を目指す。
学内他部局を含めた大学全体のグローバル化推進にも貢献。

(国立13、公立3、私立15)

求められる取組例

- ✓ 「外国語力スタンダード」をクリアした学生数や「単位取得を伴う海外留学経験者数」等、挑戦的目標値の設定
- ✓ 教員のグローバル教育力の向上
- ✓ 留学促進のための環境整備
- ✓ 語学力を向上させるための取組 等

関西学院大学の取組概要【タイプA】

スクールモットーである“MASTERY FOR SERVICE”(奉仕のための練達)を体現する、実践型“世界市民”の育成を目指す構想。具体的な目標として、将来の国際社会でリーダーとなる「グローバルリーダー」を50名、世界で専門的知識・技能を発揮できる「グローバルエキスパート」を150名、国際社会で他者と協調して社会貢献できる「グローバルシティズン」500名の計700名のグローバル人材育成を目指す。世界では3校目、アジアでは初となる国連ボランティア計画(UNV)との提携による「国連学生ボランティア」の成果と実績をベースに教育プログラムを構築。

北海道大学の取組概要【タイプA】

全12学部の入学者の中から一定の英語能力を有し、希望する200人を対象に、特別プログラムとして「新渡戸カレッジ」を創設。このほか、一部授業の他大学への開放、海外オフィスの共同利用、研修の合同開催等の実施により、国内大学のグローバル化を牽引。



練習船「おしよ丸」の乗船訓練などを通し、チームワークやリーダーシップの育成を目指す。

山口県立大学の取組概要【タイプB】

国際文化学部において徹底したグローバル教育を展開。人材育成プロセスを可視化するポイント制を導入し、学生は一定の点数を貯めることで留学選考において加算、経済的支援が受けられる。このほか、国内・海外地域実習30プログラム、語学文化研修4か所、交換留学先7大学への派遣受入、マルチリンガルスピーチコンテスト、やまぐちスタディーズなど多様な取組を展開。



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

スーパーグローバル大学事業

平成26年度要望額 156億円【新規】

(タイプA: 6~10億円×10件 タイプB: 1~4億円×20件)

【背景】社会の多様な場面でグローバル化が急速に進む中、世界各国がそれぞれ自国の成長を牽引する人材育成を担う高等教育の充実を図っており、我が国においても、大学の世界におけるプレゼンス向上やグローバルリーダー育成のための体制強化が急務となっている。

【趣旨】世界に冠たる教育研究レベルを誇るトップレベル大学をはじめ、高等教育の国際化を牽引し有為な人材を育成するグローバルトップ大学群を形成する国公私立大学を、現行制度の枠にとらわれずに、制度改革と組み合わせ制度と予算を総動員して支援する。

【対象】国公私立大学 30大学程度 (タイプA: 10大学程度、タイプB: 20大学程度)、10年間

※成長戦略 ・必要な制度の見直しを行い、世界と競う「スーパーグローバル大学(仮称)」を創設する

・人材・教育システムのグローバル化、英語による授業拡大など、積極的に改革を進める大学への支援の重点化に直ちに着手

【タイプA】トップ型 ～世界をリードする大学～

- ・大学教育の国際標準化、研究力向上に繋がる教育力の最大化を図り、ランキング トップ100を目指す力のある大学を支援
- ・海外大学のユニット誘致による領域横断型共同カリキュラムの構築、国際共同大学院の創設、優秀な教員や学生が集う環境整備、海外展開 等

【タイプB】グローバル化牽引型 ～新たな地平を切り拓く大学～

- ・教育環境の国際化推進など、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する力のある大学を支援
- ・海外大学との先駆的教育連携、大学教育のグローバル化モデルの構築、世界基準の教育展開 等

スーパーグローバル大学の形成

(A・B共通要件)

- ・英語による授業拡大
- ・柔軟な学事暦
- ・TOEFL・国際バカロレア等の活用
- ・外国人比率向上
- ・徹底した情報公開
- 等

(制度的改革例)

- ・ジョイント・ディグリー
- ・海外展開 等



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

グローバル人材育成コミュニティの形成に向けて

現状・課題

●海外拠点を持つ企業の7割以上※にとって、グローバル化を推進する国内人材の確保・育成は大きな課題

(※ 出典：経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月))

●諸外国が海外留学生数を伸ばす中、日本人の海外留学生数は2004年以降減少傾向 2004年から2010年で24,885人減少(約▲30%)

目標

	日本人留学生倍増	
	2010	2020
大学生等	6万人	→ 12万人
高校生	3万人	→ 6万人

目指すべき姿

●質の高い海外経験とグローバルな人的ネットワークを有する多くの人材が、大学等を卒業後に様々な分野で活躍

●国連等の国際機関の中核で活躍する日本人の増加により、世界的な我が国のプレゼンス・影響力が向上

国(日本学生支援機構)、民間、大学が一丸となって我が国のグローバル人材を育成

- 国(日本学生支援機構)、連携企業、大学等が協働で選考・研修等を実施
- 留学だけでなく、インターンシップ等も連動する新たな取り組み
- SNSによる本事業参加学生等のコミュニティを創設し、国(日本学生支援機構)、連携企業、大学等がそれを活用

学生等の成長プロセス

留学目的の明確化

- ・選抜による意欲の喚起
- ・留学目的が明確になることにより、将来の具体的キャリアプランを描く

質の高い留学

- ・明確な目的を持った優秀な学生が質の高い留学プログラムに参加し、大きな成果を得る
- ・支援メニューに応じ、留学後に活かせる多様な経験を積む

留学成果の定着等

- ・留学経験者が意見交換を行う交流会や、成果発表会等を通じ、留学の成果を真に身に付ける
- ・インターンシップや企業説明会等に参加し、企業理解を促進することにより、就職に向けた雇用のミスマッチを防止

選 抜

成績優秀者だけでなく、高い意志と強い意欲がある学生等を選抜

- 成績要件の設定
- 明確な留学計画、指導教員等による推薦状、面接による選考

事前研修

行っただけに終わらない留学目的の明確化

- 留学希望学生等を対象に、例えばグローバル事業の現状や企業が直面している課題などをテーマに企業若手社員によるワークショップ等を実施。これによる留学目的の明確化と意欲向上をねらう

- ・講師派遣
- ・研修プログラムの策定 等

留学時の奨学金支給

国費と民間資金のマッチング等による、学生等への奨学金支給及びステイタスの付与

【国費による支援】

平成26年度概算要求額	153億円
大学生等：10,200人	→ 32,500人
高校生：300人	→ 3,600人
・奨学金による支援	
・留学プログラムの評価 等	

- ・国費とのマッチングによる支援
- ・民間視点での支援メニューの実施

事後研修等

留学を真に血肉とするために欠かせないフォローアップを実施

- 個々人の内省を促す仕組みや、経験者同士で意見交換等の交流会を実施
- 留学修了者によるSNSコミュニティを創設し留学目的の実現に向けた取組の継続など

- ・連携企業のみSNSの閲覧可能。優秀な人材の発掘などに活用

インターンシップ・企業説明会等

留学修了者を対象としたインターンシップ、企業説明会等の実施

- 連携企業が実施する長期インターンシップへの参加
- 連携企業に限定した企業説明会等の開催

- ・インターンシップ機会の提供 等

連携企業の役割等

企業ニーズに沿った優秀な学生等を選抜するため(希望に応じ)選考への参加

若手社員を講師として派遣。社内の若手社員研修として活用することで研鑽の場にも

民間資金を活用した支援メニューの提供

支援メニュー(案)

- グローバル企業で活躍したいトップ層の学生等を支援する奨学金
- 地域のグローバル化に貢献する企業で活躍したい学生等を支援する奨学金
- 18歳頃の早期の留学を支援する奨学金

若手社員を講師として派遣。社内の若手社員研修として活用することで研鑽の場にも

- ・優秀な学生等の発掘
- ・学生等の企業理解増進による雇用のミスマッチの防止

グローバル人材となって実社会へ！

優秀な外国人留学生の戦略的な受入れ

【平成26年度概算要求額】 328億円
(※大学教育のグローバル展開力の強化 187億円)

- 重点地域等を設定し、国費外国人留学生制度における「地域戦略枠」の創設等、日本の成長につながる優秀な外国人留学生の受入れを増加させる。
- 各大学において現地で入学許可を出す仕組みづくりを促進し、「攻め」の留学生施策を実施する。
- 大学の徹底した国際化や奨学金等の受入れ施策の充実を図り、外国人留学生の受入れを拡充する。
- 関係省庁や経済団体とも連携し、卒業後の就職支援等についてのグッドプラクティスを増やすことで外国人留学生受入れの呼び水効果を強化する。

STEP1

渡日

STEP2

日本で就職

帰国

STEP3

優秀な外国人留学生を重点
地域等で確保 11.4億円(4.7億円)

日本で学修

315.7億円(278.2億円)

(※大学教育のグローバル展開力の強化 187億円(28億円))

優秀な外国人留学生の就職
支援等 0.9億円(0.4億円)

➤ 重点地域等における日本留学の促進

- ・ 留学コーディネーター配置事業
6億円(20箇所)【新規】

日本留学の司令塔となる留学コーディネーターを重点地域等に配置し、在外公館や我が国の政府関係機関の海外事務所、大学等と連携して、現地での情報収集・発信の強化、人的ネットワーク構築を行い、外国人留学生の受入れ促進を図る。

➤ 日本留学情報発信機能の充実

- ・ 日本留学フェア等の実施(21都市)

➤ 現地における入学許可の推進等

- ・ 日本留学試験の実施(17都市)等

＜重点地域＞

ASEAN、ロシア、アフリカ、中東、中央アジア、インド、南米、米国、中東欧

➤ 奨学金等の充実

- ・ 現状、約14万人の外国人留学生が在籍
- ・ 諸外国との国際交流や相互の友好親善を促進するため、約1万人を国費外国人留学生制度で支援
→ 重点地域等から優秀な留学生を獲得するための「地域戦略枠」を創設
- ・ 私費留学生のうち成績・人物に優れ経済的に修学が困難な者約1万人を文部科学省学習奨励費給付制度で支援
→ 渡日せずに入学許可や奨学金の支給決定を促進するための予約権付奨学金の拡充
- ・ 大学間交流協定に基づく双方向の留学生交流の促進
→ 大学の交流協定に基づく外国人留学生＜短期受入れ(1年以内)＞への支援を倍増

➤ 日本の大学の体制整備 ※大学教育のグローバル展開力の強化

- ・ スーパーグローバル大学(仮称)構想 156億円【新規】
海外トップ大学との連携や海外展開、教育環境の徹底した国際化等(30校)

➤ 大学と地域が連携した外国人留学生の生活支援の充実

- ・ 大学等が、自治体やNPO等と連携し、地域一体となって留学生との地域交流や生活・就職支援等を行う拠点整備を支援を倍増

➤ 日本留学経験者のネットワーク形成

- ・ フォローアップ等の実施
国費外国人留学生等のフォローアップを実施、ネットワークの強化

➤ 優秀な外国人留学生の就職につながる取組強化

- ・ 就職支援の充実
外国人留学生就職指導ガイダンスの開催、就活ガイド作成等

優秀な外国人留学生を確保するための好循環の創出

成果

○ 我が国の国力を増大

- ・ 重点地域での市場拡大
- ・ 外国人留学生発ベンチャー等による新たな「富」の創造

○ 日本のプレゼンスの向上

- ・ 日本留学の評判の向上とそれに伴う外国人留学生の拡大

「留学生30万人計画」の実現を目指す